

地層の野外観察地の選定プロセスと生田緑地での実践

The selection process of outdoor observation area of stratum
and the Practice at Ikuta Ryokuchi

理科 前川 哲也

要 旨

学習指導要領には「地層の観察について野外観察などを行うこと」となっているため、本校では、従来江の島をフィールドに地層観察を行っていたが、年々それが難しくなっている。そのため新たな候補地を探す必要が出てきた。城ヶ島、長沼公園などの候補地があがったが、中学生にもわかりやすい地層が見学でき、また交通の便が良いことや科学との連携ができることなど、校外学習としてもふさわしいという点から、神奈川県川崎市の生田緑地を選んだ。同所では地層の観察だけでなく、科学館の見学やプラネタリウムも可能であるので、それらも含めた実施を計画した。さらに日程の設定や学習指導も調整を行うとともに、業務チェックリストを作成した。

実際に野外観察を実施したところ、現地で地層を目にした時の生徒は、地層から過去の環境と地質年代を推定することだけでなく、地層や過去の地球についての興味・関心を高める様子が見られ、所期の目的もある程度達成されていることが示唆された。

キーワード：地層 野外観察 生田緑地 関東ローム層

I はじめに

中学校学習指導要領において、地層を観察する野外活動が初めて明記されたのは、平成10年12月告示のものである。

その一つ前の平成元年3月告示では、「大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を通して」「地層の観察や記録を基に」と、地層を観察することが暗黙の前提のようにも読み取れるものの、「野外観察を行い」などの文言はなかった。

それに対し、平成10年12月告示では、〔第2分野〕(2)大地の変化 に次のように書かれている。

2 内容

(2) 大地の成り立ちと変化

ア 地層と過去の様子

(ア) 野外観察を行い、観察記録を基に、地層のでき方を考察し、重なり方の規則性を見いだすとともに、地層をつくる岩石とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と年代を推定すること。

あわせて、「内容の取扱い」で次のように書かれている。

3 内容の取扱い

(3) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)については、地層を形成している代表的な堆積岩も取り上げる。 「野外観察」については、学校の周辺で地層の様子を観察する活動とすること。「化石」については、示相化石及び示準化石を取り上げるが、地質年代の区分は古生代、中生代、新生代の第三紀及び第四紀を取り上げるにとどめること。地層の「重なり方」については、野外観察で見られた地層について、その重なり方の規則性をとらえることにとどめること。

つまり、学校の周辺で地層の様子を観察する活動をするのが中学校に要求されていたはずである。ところが、三次(2008)の調査によれば、地層観察の実施率は、小学校で33.3%、中学校で11.9%という結果が出ている。同調査では「野外観察を行う適当な素材や場所がなかったから」を筆頭とした野外観察の実施できない理由が挙げられている。

小・中学校学習指導要領に記された内容にも関わらずこのような低い実施率や、地域によっては実施が難しい状況に配慮したためか、平成20年3月に告示された現行の学習指導要領では、〔第2分野〕(2)大地の成り立ちと変化 において、少々緩和している跡がみられる。

2 内容

(2) 大地の成り立ちと変化

イ 地層の重なりと過去の様子

(ア) 地層の重なりと過去の様子

野外観察などを行い、観察記録を基に、地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定すること。

3 内容の取扱い

(3) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ウ イの(ア)については、地層を形成している代表的な堆積岩も取り上げる。 「野外観察」については、学校内外の地層を観察する活動とすること。「地層」については、断層、褶曲にも触れること。「化石」については、示相化石及び示準化石を取り上げる。 「地質年代」の区分は古生代、中生代、新生代の第三紀及び第四紀を取り上げる。こと。

ここで、平成10年告示では「野外観察を行い」であったものが、「野外観察などを行い」と「など」が入っている。このなどの解釈は、中学校学習指導要領解説理科編(平成20年9月)に「なお、野外観察については、学校付近に地形や露頭の観察に適した場所がないような地域では、露頭が見える場所に校外学習を行ったり、博物館などの施設を活用したりするなどの工夫が必要である。」と、野外観察の代わりに、博物館などの施設を活用する代替案を提示している。

とはいえ、目の前で観察している地層や岩石から、ダイナミックな空間の広がりや、はるか昔の噴火や土地の変動、どんな生物がいたのかが推定できるというのは、地学分野ならではの魅力といえる。また、野外観察を通して、本物の地層や岩石、化石に触れることにより、興味・関心を高める効果も期待できる。

本校の場合は、授業の時間内に地層の観察ができるような好適地がないため、平成13年度に佐藤が

主導で江の島の地層観察を中心とした校外学習プログラムを開発した。そのプログラムで毎年2年生を対象に4月下旬頃に実施してきたが、地域の開発により観察可能な地層が年々減っていくことなど、地層を観察するにあたって不都合な点が生じるようになってきた。その他、雨天時の対応が懸案事項だったことや、東日本大震災を契機に津波時のリスクも指摘されるようになったことなどから、江の島に代わるエリアを検討する必要性が出てきた。

本稿は、本校において新たな場所で地層の野外観察を行うにあたって、場所の選定をはじめとする新たな地層観察プログラムの開発から、実施したときの実践記録を報告するものである。

II 新たな地層観察プログラム

ここでは、本プログラムを開発するにあたり、どのような点を検討し、その結果どのようなプログラムを企画したかを示す。

(1) 地層観察の目的

学習指導要領で示されている野外観察の内容を踏まえることはもちろん、地層を観察し、そこから地球の歴史を読み取ることによって、地層への興味・関心を高めることも重視したい。

そこで、次の2点を目的とした。

- ①地層を観察し、そのでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定する。
- ②地層を読み取ることにより地層や過去の地球についての興味・関心を高める。

(2) 学習フィールドの選定

フィールドの選定にあたっては、大きく2つの視点から検討する必要がある。

第一に、(1)で示した地層見学の目的にかなうようなものが観察できるかということ。

第二に、120名以上の生徒を郊外へ引率するにあたり、交通の利便性（都内からの移動時間も含む）や安全面の確保など、校外学習が無理なくできる場所であること。

これらの点から、第1段階としていくつかの候補地について検討した。

①長瀨（埼玉県秩父郡長瀨町）

日本地質学発祥の地でもある埼玉県秩父郡にある長瀨は、国指定の名勝・天然記念物の「長瀨岩畳」をはじめ秩父赤壁や虎岩など、見どころが多い。とはいえ、変成岩の一種である結晶片岩が多くみられるなど、長瀨としての「みどころ」が中学校で通常学習する範囲ではカバーできない内容があることに加え、都内（池袋）から電車で片道2時間程度かかってしまうことは、宿泊もしない限り現地での活動時間が限られてしまうことから、候補から外した。

②城ヶ島（神奈川県三浦市）

神奈川県・三浦半島の南端に位置する城ヶ島は、東西約1.8km、南北約0.6km、周囲約4kmの小さな島である。関東ローム層が確認できたり、断層、しゅう曲、不整合がはっきりとみられたりするなど、長瀨に比べると中学生にもわかりやすい地層が露出していて、地層の学習には最適な場所といえる。また、関東大震災で約150cm隆起した馬の背洞門は、かつて教科書に掲載されていたこともあり、生徒にとってもインパクトが大きい。

大変魅力的な場所ではあるが、江の島と同様、地震時の津波のリスク管理は課題である。すでに城ヶ島では、平成26年10月6日に起こった津波によって被害を受けている。『三浦市津波ハザードマップ』をみると、標高10m以下の場所が多く、避難経路もあるものの、もし城ヶ島内で班行動の形式で地層見学をすとした場合、地震発生時に生徒だけで適切に避難できるかという問題があり、最低でもクラス単位で教師がついて活動することになる。

また、生徒を引率する面での交通の点がネックである。東京から城ヶ島に近い京浜急行電鉄の三崎口駅まで約1時間20分。そこからバスで25分かかるため、ここで実施するとしたら、現地集合は難しく、バスを貸し切る必要が出てくる。実施するとしたら学校からバスを貸し切っていくことが前提になるが、他に有力な候補がない限り、いったん候補から外しておくことにした。

③房総（千葉県）

房総、といっても愛宕山、勝浦、養老溪谷、鹿野山周辺など観察に適している場所が点在している。それぞれのエリアについて詳細を検討するべきではあるが、ここも電車で片道2時間を超えてしまうところから候補地としての検討を断念した。

④生田緑地（神奈川県川崎市）

生田緑地は丘陵地をにがある川崎市立の総合的な公園で、プラネタリウムをもつ「かわさき宙と緑の科学館」（以降、「科学館」と呼ぶ）と、美術館、日本民家園などの文化施設がある。特に科学館では、地層をはじめとする解説も充実しており、観察時には協力が得られやすい。

公園内の枳形山を歩くことで、飯室泥岩層、おし沼砂レキ層、関東ローム層と観察し、地層のでき方をストーリーだてて理解することができる。

また、最寄駅も小田急線向ヶ丘遊園駅であり、新宿から急行で20分程度と近く、駅からも多少遠いものの徒歩で行ける範囲である。そのため、今回の野外観察のフィールドとして、有力な候補となった。

⑤長沼公園（東京都八王子市）

多摩丘陵内にある都立公園で、新宿から40分程度で行ける京王線の長沼駅が最寄り駅である。長沼駅から徒歩5分で長沼公園に到着するため、交通面では及第点である。

ところどころに露頭があり、下から上総層群、御殿峠礫層、関東ローム層と堆積している。また特に上総層群からは生痕化石や印象化石が見つかりやすい。

以上より、長沼公園も候補の一つとして検討した。

第2段階として、生田緑地と長沼公園について、現地へ調査に行った。

長沼公園については、地層は観察できるものの、生徒だけで観察するよりは、実物を観察しながら教師による丁寧な解説が必要だなと感じた。さらに道に迷いやすい印象を受けた。そして、雨天時の活動が難しいことが懸念された。

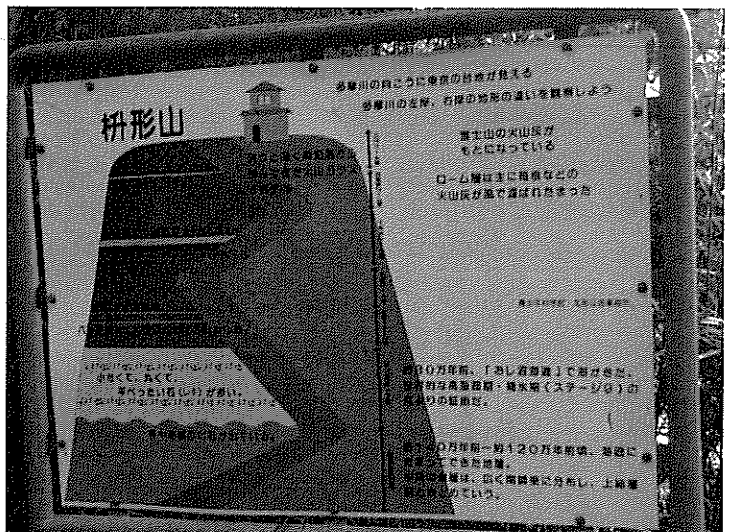


図1 生田緑地の枳形山の解説板

一方、生田緑地についてはメリットが多いことが示唆されたため、フィールドとして決定するまでに、二度現地調査した。一度目は、科学館が主催する地層をテーマにした観察会に参加した。ゆっくり2時間のコースで、標高84mの杵形山を登って降りる間に6か所の観察ポイントがあり、そこでじっくり観察する。内容も生徒にわかりやすくふさわしいと考えた。

二度目は、地層見学のコースは申し分ないので、科学館の方に、科学館の見学とどう組み合わせるかなど、ここで地層観察を行うときの具体的なプランを練る相談を受けていただいた。実は生田緑地は、川崎市内の小中学校をはじめ、多くの学校が地層観察をしており、科学館でもかなりのノウハウを持っている。多大な協力をいただきながら、実施することが可能だということがわかった。

また、科学館の施設として、プラネタリウムがあるが、本校では天体を学習するときにプラネタリウムを見学していなかったため、午前中に地層観察、昼食前に博物館の展示物の見学、午後にプラネタリウムというパターンがイメージできた。

以上のように、生田緑地が地層観察の学習フィールドとふさわしいと判断した。

(3) 実施時期

科学館側の要望により、時期を調整する必要が出てきた。地層観察会ができるのは平日の火・金曜日のみであり、プラネタリウムの学習投影は5月の連休明けからの実施となっている。江の島の時は、4月下旬に行われていたので、時期をずらす必要が出てきた。

本校のカリキュラム上、例年、5月中旬以降の金曜午後は、体育大会の準備が入っている。また、6月中旬からは前期中間考査があり、それが終わると教育実習期間になるため、遅くとも6月上旬には済ませたい。

以上の点から、5月連休明けから6月上旬の火曜日もしくは金曜日あたりに限られる。平成27年度は6月5日（金）に実施した。

なお、学校団体の利用申請可能期間は川崎市内の学校は6ヶ月前から申し込みができるが、本校のような市外の学校は3か月前にならないと申し込みができない。3か月前にはすでに市内の学校が予約している可能性もあるため、実施時期については3か月前にならないと確定できないというリスクもはらんでいる。

なお、「大地の成り立ちと変化」を1年生で学習するところから、将来的には1年生の3月に行くことも検討していきたい。

(4) 指導計画

本校で使用している教科書、「新しい科学1年」（東京書籍・平成24年版）では、「大地の変化」単元中の「第3章 大地の変化を読み取る」の学習配列は、次のようになっている。

第3章 大地の変化を読み取る	
1 地層のでき方	4 大地の変動
2 地層や化石からわかること	5 大地の歴史
3 堆積岩	

このうち1～4については1年生のうちに学習し、地層の観察が学習内容に含まれる5のみ、2年で事前学習の一環として行う。ここでは、単に地層を観察するというだけでなく、学習した知

識を基に観察結果を分析し解釈することによって、その土地の何万年も前の過去がわかるということの意義と面白さも伝えていく。

あわせて、科学館からいただいた資料やワークシートなどをもとに、生田緑地の地層について、どんなものを観察するのかを予告する。また、「シルト」などの教科書では扱わなかった用語についても触れておく。

事後学習としては、もう一度どのような地層だったか振り返りながら、ワークシートを完成させて、枳形山の過去のストーリーを再構築していく。

(5) 業務チェックリスト

校外学習の準備として、主に来年以降も使えるように、必要な業務をリスト化した。それを表1に示す。

表1 業務チェックリスト

	大項目	小項目	時期の目安	備考
	日程の決定		前年度	年間行事予定に入れる→教務
	科学館への連絡		3か月前	3か月前になったらすぐに連絡。空いていることを確かめること
	実施要項の作成	時程・交通・医療機関		例年それほど変わらないはずだが念のため確認すること。
		引率者		学年の担任・副担任8名が基本。他学年の授業のある先生を確認。
	実施要項を会議に提出		1ヶ月前	会議日を確認
	実地踏査の計画	メンバー 実地踏査要項 交通費等請求	1ヶ月前	必要なら新任者を誘う 事務へ 副校長へ
	実地踏査	科学館あいさつ 地層の状態確認 その他の変化	1ヶ月前	必要なら打ち合わせ 工事などやっていないか
	学習指導	「大地の変化」の学習 事前学習 事後学習		ワークシートなどの資料準備
	保護者あて文書の作成		実施要項が会議を通った後	
	生徒指導	もちもの、ルール カメラ 整列隊形の練習		とくに携帯電話の扱い 学校のカメラ or 個人のカメラ
	保険		出発前日までに	50円×人数 現金先払い 旅行会社へ

ワークシート	改訂の必要性検討 印刷		必要なら改訂する
しおり	印刷・製本		
教員打ち合わせ			予定を早めに伝える
救急セット	準備 配布 返却	数日前 前日 後日	保健室から借りる
報告書類の作成		事後	事務へ

※「しおり」は本稿の最後に掲載した。

Ⅲ 野外観察の実施とその結果

平成27年6月5日（金）に第2学年生徒118名を対象に校外学習を実施した。
 時程は次のとおりである。

- 9:20 科学館前集合
- 9:50 地層学習開始 クラスごとに解説員とともに移動して見学
- 11:50 地層学習終了
- 12:00-12:30 昼食
- 12:30 昼休み（館内自由見学）
- 13:10 プラネタリウム入口前集合
- 13:15 プラネタリウム開始
- 15:30 プラネタリウム終了
- 15:40 科学館前で解散

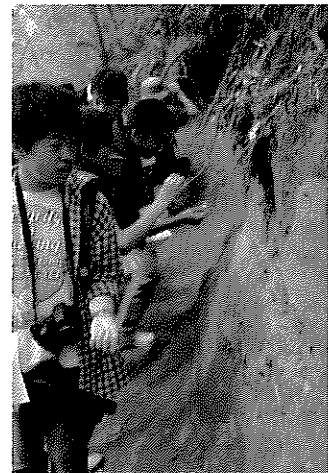


図2 地層観察の様子

地層学習はクラスごとに分かれ、ガイドによって①飯室泥岩層②おし沼砂れき層③関東（多摩）ローム層④関東（立川）ローム層⑤おし沼砂れき層⑥飯室泥岩層とおし沼砂れき層の不整合面と観察した。

提出された109名分のワークシートを分析すると、全員の生徒が①～④の地層名を記入することはできていた。ただし、「い



図3 地層タワー（左）と鳥の標本に見入る生徒（上）

いむろ層」など口頭で聞いたので漢字がわからずひらがなで書いた生徒や、「砂れき層」の「れき」を「歴」と書く（正しくは「礫」）などの誤字は、22名（20%）みられた。

また、①から④までは山を登り、④から⑥にかけては山を下るので、②と⑤の地層は実は同じ地層だという点に気が付いて記述した生徒が49名（45%）みられた。

この時のワークシートの生徒の記入例を次ページに示す。

地層観察後に、科学館内の見学を行った。科学館内では、実際の地層を約5分の1に縮小再現した8mの高さの地層タワーに圧巻した生徒も多かったが、それだけでなく、丘陵や街でみられる植物や動物など、川崎の自然についてのさまざまな標本を食い入るように見ている生徒も目立った。

その後、プラネタリウムで今夜の夜空から様々な星座の話、天体の動きなど、3年生で学習する「地球と宇宙」に関する内容を学習した。

事後学習では次のような問題を出した。（回答者118人）

生田緑地の地層について、次の問いに答えなさい。

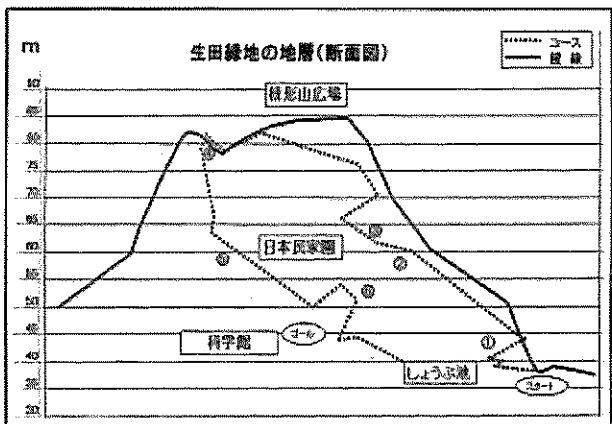
- (1) ①の地層は、飯室泥岩層です。この地層は「泥」のうち、「粘土」よりも大きな粒でできています。この粒を何というか。カタカナ3文字で答えなさい。
- (2) ②の地層は、おし沼砂礫層といって砂と礫による地層です。①と②の地層は、堆積した当時はいずれも海底でしたが、より深い海底だったと考えられるのは①と②のどちらか。
- (3) ③の地層にごま塩軽石層という白と黒の鉱物が混じっている地層があります。この層をつくっている白の鉱物は次のア～エのうちではどれですか。
ア 石英 イ 角閃石 ウ 輝石 エ 黒雲母
- (4) 柵形山頂上近くの④の地層は立川ローム層です。この層と山のふもとの①の地層では、どちらが古い地層ですか。①または④と答えなさい。
- (5) ⑥の地層では、約120万年前の地層と約30万年前の地層が重なっています。このように堆積した時代が離れている2つの地層が上下に重なっていることをなんと言いますか。

もちろん、すべて事前学習または現地で学習した内容である。

- (1) は「シルト」と正解した生徒が96人（81.3%）
- (2) は「泥」と「砂と礫」による地層で、どちらが深い海底だったかの比較であるが、正解の泥（①の地層）を選んだのは101人（85.6%）であった。
- (3) の選択肢のうち無色鉱物はアの石英だけであり、実際にこれが正解である。正答者は97人（82.2%）であった。
- (4) では頂上の④とふもとの①ではどちらが古い地層かという問いなので下にある①が古い地層である。正答者は111人（94.0%）であった。
- (5) は「不整合」と正解した生徒が100人（84.7%）だった。

生田緑地にある3つの地層の特徴

	A	B	C
地層名	飯室泥岩	おし沼砂れ土	火山灰 (関東ローム)
特徴	灰色 粒が小さく均一にしている。 化石(海のもの)もある。	黄土色 粒がやや大きく不均一にしている。 丸みのある小石がある。	赤褐色 粒が粗い。 顕微鏡で見ると色々の結晶がある。



資料1 ワークシートの記入例

生田緑地の地層を観察しよう

組名前 _____

※新形山を登っていくと、次々に露頭(地層が出ているところ)が見えてきます。どのような地層があるのか観察して、どうしてそのような地層がここにあるのか、これまでになんかことが起こったのかを考えてみましょう。

↑ 新

④の地層名: 関東ローム層(川口層)
時代: 2500年前
特徴: 黄土色の細かい土、砂が少く、石がほとんどない。西側が因り東へ傾く。石が少く、土が細かい。

③の地層名: 関東ローム層、フナ塚層
時代: 2500年前
特徴: 黄土色の細かい土、砂が少く、石がほとんどない。西側が因り東へ傾く。石が少く、土が細かい。

②の地層名: おし沼砂れ土
時代: 2500年前
特徴: 黄土色の細かい土、砂が少く、石がほとんどない。西側が因り東へ傾く。石が少く、土が細かい。

①の地層名: 上総層(飯室層)
時代: 2500年前
特徴: 赤褐色の細かい土、砂が少く、石がほとんどない。西側が因り東へ傾く。石が少く、土が細かい。

↓ 古

温暖化 → 氷量が減る → 海面上昇 → 陸地が海に没する → 寒冷化

地層の野外観察地の選定プロセスと生田緑地での実践

IV 野外観察を実施して

ワークシートの記入状況や事後学習で出した問題の正答率、そして現地で地層を目にした時の生徒の反応から考えると、地層から過去の環境と地質年代を推定することだけでなく、地層や過去の地球についての興味・関心を高める目的もある程度達成されていると解釈できる。

特に地学領域は、第1分野に比べて理科室での実験が少なく、また生物ほどは注目をされにくい領域である。そのような中、地学的事象の見方や考え方を身につけることで、今までは、あっても見過ごしていたような地層から、実は自然のスケールの大きさや地球のダイナミックな歴史が学び取れるのだ、ということに気づき、興味・関心を高められたことは大変有意義なことである。

今後はプラネタリウムでの天体の学習も充実させ、地学領域全体の見方や考え方を身につけさせていきたい。

参考文献

勝田毅「地域の自然を生かした野外観察の工夫－地層や岩石の観察のために－」愛媛県総合教育センター教育研究紀要 第71集、pp.55-57、2005

佐々木修一「小学校理科における地層教材開発に関する研究」、秋田大学大学院教育研究科

佐藤道幸「授業実践報告『地層観察校外学習の実践』」お茶の水女子大学附属中学校紀要 第31集、pp.13-36、2001

鈴木康代「問題意識と探究心を高める理科地域教材の開発と学習活動の工夫」第28回東書教育賞入賞論文集、pp.20-31、2012

高橋宏和「理科校外学習の指導と実施」筑波大学附属駒場中・高等学校研究報告 第31集、pp.103-127、1991

前川哲也「中学理科教師のためのチェックリスト・地層の野外観察」、理科の教育、2015

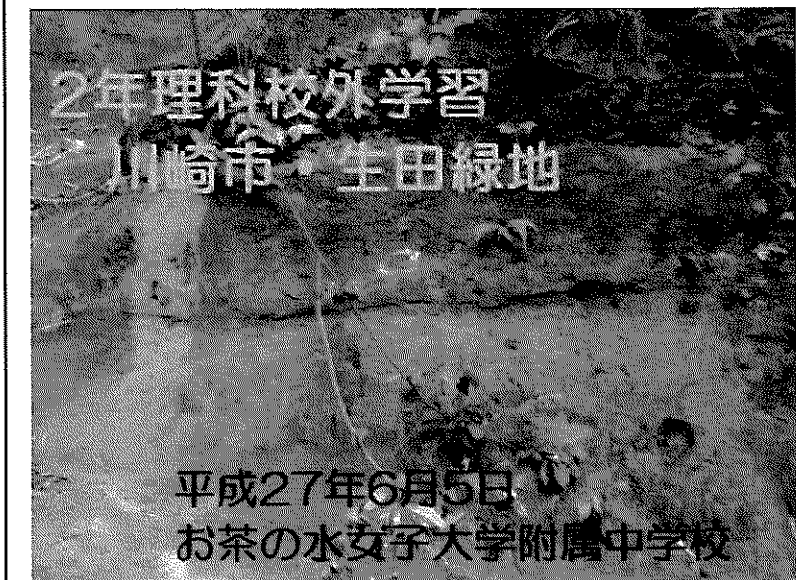
三次徳二「小・中学校理科における地層の野外観察の実態」、地質学雑誌 第114巻 第4号、pp.149-156、2008

文部科学省「中学校学習指導要領解説編理科（平成20年3月）」

「新しい科学 1年」東京書籍、2012

学習指導要領データベース <https://www.nier.go.jp/guideline/>

三浦市津波ハザードマップ <http://www.city.miura.kanagawa.jp/kikikanri/tsunami.html>



目的

- (1) 地層を観察し、そのでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定すること。
- (2) プラネタリウムを視聴し、太陽系や恒星など宇宙への興味・関心を高めること。

おねがい

生田緑地の地層は約 100 万年の歴史を今に伝える大切なものです。この貴重な地層を保護するために、観察するときはむやみに削ったり、サンプルを採取したりしないでください。

一日の流れ

向ヶ丘遊園駅までの交通経路と時間を書いておこう

※向ヶ丘遊園駅には 9:00 までには到着しておこう。

- 9:20 科学館前集合(向ヶ丘遊園駅から所々に教員が立って道順指導)
- 9:50 地層学習開始 クラスごとに解説員とともに移動して見学
- 11:50 地層学習終了
- 12:00-12:30 中央広場にて昼食 (雨天時は館内)
- 12:30 昼休み(館内・中央ひろば自由見学)
- 13:10 集合
- 13:15 プラネタリウム開始
- 15:30 プラネタリウム終了
- 15:40 科学館前で解散

向ヶ丘遊園駅から かわさき宙とみどりの科学館まで

- ①向ヶ丘遊園駅を南口でおります
- ②改札の前に地図や案内板とともに「ドラえもん」がいます。
- ③そこから左に駅前のロータリーにそって歩き、車道の真ん中にある自転車置き場と平行に進みます



- ④いくつか交差点がありますが、ひたすらまっすぐ進みます。
- ⑤ダイエーを過ぎたところでまた交差点がありますが、ここもまっすぐ進みます。

⑥ 正しくダイエーの先の交差点を通過すると、生田緑地や青少年科学館への案内が見えます。そのすぐ先にある「ラベンナ」という店のところで道が分かれますが、まっすぐ(右側の道路)に行きます。

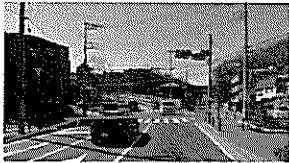


⑦ さらにずっと歩くと「生田緑地入口」という信号のある交差点があります。この交差点だけはまっすぐ進まず、右にあるちょっと細い道路に行きます。

⑧ するとビジターセンターが見えますので、その右を通ります。あと少し!

⑨ 科学館到着! かわさき宙とみどりの科学館前 9:20整列完了

⑦



⑧



もちものチェック表

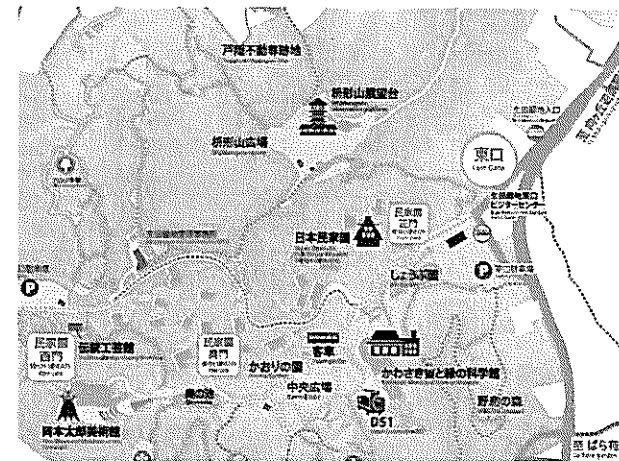
弁当		カメラ	
水筒		バッグ	
しきもの		雨具	
交通費 (IC カード)			
筆記用具			
生徒手帳			
しおり			
ワークシート			

緊急時の対応

緊急時の利用病院

生田クリニック 川崎市多摩区三田 1-14-1 044-922-5111

当日の欠席は … 学校 03-5978-5865
 移動中および活動中の緊急連絡 … 学校携帯 080-2070-9544



2年組 班氏名